山ちゃん先生の
ウチナーサンコン教室
2

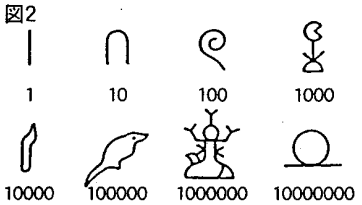
大昔、原始時代といわれた時代、人間は「数字」を持っていなかったんだ。でも、魚や木の実などの数を、絵や印の形で木や石に刻んで記録していたんだよ。やがて、多くの数をあつかうようになると、「10」のかたまりの記号を使うようになってきたんだね。これは人間の両手の指の10本を利用したと考えられているんだよ。

数を木に刻んで記録

10でまとめたエジプト数字

図1
エジプト数字

図2



今から約6000年昔、エジプトというところに、すごい文明が栄えたんだ。あの巨大なピラミッドやスフィンクスを造り、ナイル川を測量し、宇宙空間をみる天文学まで行われたんだよ。そのエジプトでは「エジプト数字」が生まれたんだ。（図1を見てね）

このように、古代エジプトでは、石や粘土板に個数を棒のような記号でしるしたんだ。10になると棒が10本ではなく、記号を変えたんだね。10集まると記号を変えることを「十進法」と言うんだ。古代エジプトでは、図2のように「十進法」の記号で1億の数字まで表すことができたんだ。

みんなも古代エジプト人になったつもりで、次の数字を「エジプト数字」で書いてみよう。（図3を見てね）

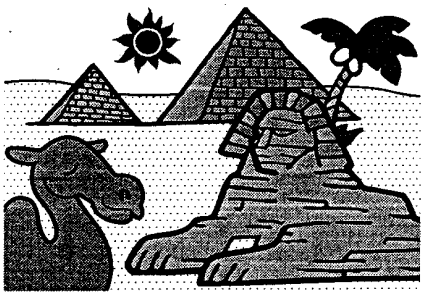
図3

① 24→

② 322→

③ 20043→

同じ記号同士を計算すれば、今のたし算・ひき算だって簡単にできるよ。（図4を見てね）



今から6000年も前にこのような数字を考え出して、ピラミッドなどの大きな建物を造ったんだから、エジプト人はすごいね。このほかにも、メソポタミア、ローマ、マヤ、中国など古代文明が栄えた地域では、このような数字が独自に考え出されているんだ。

（山本隆司・高原小教諭）

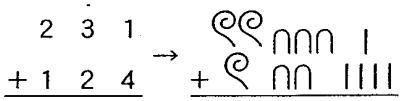



図4